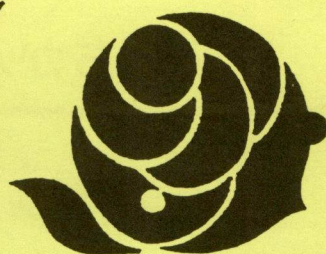


Rosa Plumula

ローザ・プルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター No.12

目 次

巻頭言	1
ようこそ！	
「大学教育研究開発センター」です	1
私たちががんばっています	
—専門部会便り—	2
キャンパス情報	4
新入生のみなさんへ一言	
—私からのアドバイス—	6
Voice	
—私のイチオシ授業—	7
教養教育古今東西	9
教養教育NOW	10
新入生の授業を担当して	12
(平成11年4月発行)	

本学は今年、創立50周年を迎え、21世紀に向けて魅力ある大学として成長していくことが、いっそう期待されている。

昨年秋に実施された教養教育の現状把握のための学生アンケート調査をみると、とくに自由記述欄には、授業の内容、教育の方法、教官の授業態度に対する率直な意見が多数寄せられており、考えさせられるものがある。

どれだけ興味のある講義を提供されるかが、学生諸君にとっては、充実した大学かどうかの基準となることは、十分理解できる。しかし大学を支えるのは、半分は学生諸君自身である。

何のために、何を学びにきているのか、いま一度考えてほしい。そのためには自分とこれまでの過去との関係、家族、小・中・高校、先生、地域社会、国家等との関係をあらためて思い返してほしい。他者と自分との関係を知ることがすべての出発点である。大学とは「自分とは何か」を考える場である。そして自分の本心を再確認し、扉をたたいてほしい。

大学は諸君と教官との共同体である。

(金 原)

ようこそ！「大学教育研究開発センター」です

新入生のみなさん入学おめでとう。

茨城大学は人文、教育、理、工、農の5学部から成る総合大学です。これらの学部には500名を超える専門家、研究者がおり、文学、芸術から精密工学にいたるまで実に多くの分野で優れた研究がなされています。これらの多様なスタッフが参加し授業を行うのが教養科目の教育です。大学教育研究開発センターはこれらの授業が学生のみなさんに受け入れられ大いに勉学に励んでいただけるよう計画、実施すると共に教養教育をはじめとする大学教育の研究開発を行っています。

“蝶はもぐらではない。でも、そのことを残念がる蝶はいないだろう。”

このことばは、ユーモアがあり人に暖かなまなざしを絶やすことのなかったアルバート・アインシュタインが人生について語った一節です。大学は学問への出会いの場であると共に人への出会いの場でもあります。また、夏休み、春休みをはじめおそらく人生のなかで自由な時間が最も多くとれる時期でもあります。多くの経験と学問への取り組みにより、これから君たちが生きていく価値観を確固たるものにしていただきたいと希望します。このセンターのある共通教育棟は、多くの教官、学生に出会える場でもあります。一言声を掛けて、君たちの大学4年間が有意義で実りのあるものになるよう心がけて下さい。

(横沢)

私たちががんばっています — 専門部会便り —

外国語科目専門部会

大学教育研究開発センターには、既に新入生諸君の手にある「教養科目履修案内」にあるように、教養科目を構成している7つの科目に対応させてそれぞれ専門部会がありますが、外国語科目専門部会はその内の一つです。この部会は、名前が示しているように外国語科目についての仕事をするところですが、もう少し具体的に云いますと、毎年の仕事として、この科目の履修希望者のクラス分けをしたり、外国語科目の時間割を作ったり、担当の先生を決めたり、非常勤講師の手配をしたり、シラバスを編集したりしています。部会のメンバーは、部会長と各学部から1名の教官の総勢6名で、部会長はこの科目の責任部局である人文学部のコミュニケーション学科の教官になります。今年度は、先に挙げたルーティンワークに加えて、外国語科目の抜本的改革のための検討がこの部会の大きな仕事となります。(鈴木)

健康・スポーツ科目専門部会

2年間かけて取り組んできた健康・スポーツ科目の教科書が、この3月にやっとのことで出版できた。タイトルは「健康スポーツの科学」(健康スポーツ教育研究会編、大修館書店、B5版、定価(2300円)である。「健康・スポーツ」ではなく、「健康スポーツ」とひとつのタームでいいきったのには理由がある。それは、人間のライフ(いのち・生活・人生)をより豊かにするための総合的な概念として、また、「保健・健康科学」と「体育・スポーツ科学」という、従来ともすると分離しがちであった学問領域を、「人間の運動」(human movement)という共通項を設けることによって融合させ、それを、「健康」「運動」「スポーツ」といった3つの軸を中心に多角的にとらえたいと考えたからである。

健康・スポーツ科目は、茨城大学教育学部の保健体

育、スポーツコース、健康コースのすべての教官が一致団結して担当している。その教官たちが、総力を結集して、学生に分かりやすく、また、生涯にわたって役に立つ内容を厳選し、事典的にこの教科書をつくった。教科書の作成は今回で2回目である。実技の内容と、その基礎理論である教科書が「健康スポーツ」の名のもとに有機的に結びつくよう、今後の授業をより充実したものにする必要がある。(日下)

情報関連科目専門部会

— コンピュータと仲良く付き合おう —

新入生の皆さん、入学おめでとう。本学では平成8年から、情報関連科目が教養科目の中の必修となりました。1年次または2年次で、必ずコンピュータの授業を修得する必要があります。単位を取得するだけでなく、積極的にコンピュータと付き合ってください。

今日ではコンピュータを使わないと、全く仕事が出来ない時代になりました。コンピュータは計算する道具としてよりも、文房具や通信手段として重要性が増しています。これからの社会生活では、コンピュータが使えないと知識人としては認知されません。幸い本学では、4月から情報処理センターが総合情報処理センターに格上げになり、処理能力やパソコン台数が倍増され、水戸地区には新しい建屋も建ちます。皆さんが自由に使える時間も飛躍的に増えるでしょう。

最初のうちは、コンピュータに慣れることが苦手な方も多いと思います。でも十分に使えるようになると楽しい世界が待っています。インターネットを通じて、他の大学の友人とメールを交換したり、いろいろなホームページを訪問したり、お絵描きソフトで年賀状やコンパの案内を作ったり。これには授業を機会に勉強し、コンピュータと親しく付き合う必要があります。授業の合間などにコンピュータルームで自習することを強くお勧めします。若い君たちは、すぐに私たちを追い抜くでしょう。でも、ルールだけは守ってください。コンピュータシステムを変えようとしたり、よそのコ

ンピュータに不法に侵入することは、絶対にしないで下さい。ルールを守り、楽しくコンピュータと付き合しましょう。(岡田)

人文学部専門部会

「教養教育なんて、なにか役にたつのかな……。専門教育なら将来の仕事にいかせるのわかるけど……」なんて、考える人もいるかもしれません。でも教養教育があるからこそ大学です。すぐに役立つかもしれないけれども、今までとは異なる考え方に触れ、ものを考える視野を広げてゆくのが教養教育です。特に、人文科目の多くは、速効性のある薬のように効くものではありません。ずっと「服用」していると、じわじわ効いてきて、ある時、効いてきたかなと思わせるような、そんな学問です。人文科目のなかには、高校まででなじみのある歴史や文学、また、どのように研究しているのかと期待をいだかせる心理学やコミュニケーション論などがあります。でもなじみのあるものもないものも、覚えることに意味があったこれまでの学び方とは違って、これからは、なぜそうなるのか、どのように考えて行くべきかということに、時間をかけて大いに悩んで下さい。

また、教養教育は1年次で終わるものではありません。専門以外のことにも目を向ける姿勢をずっともって、チャレンジしてみてください。工学部・農学部の学生も、2年次以降もそれぞれのキャンパスで人文科目が履修できるようになりました。人文科目を学ぶことを通じて、今まで教えられてきた「常識」を疑い、新たな視点を見いだしてくれたらと願っています。

(植野)

社会科学部専門部会

ー 専門用語は正確に ー

社会科学の用語に限ったことではない。すべての学問上の用語は、その内容を正しく理解し、正しく書かなければならない。どのような学問領域であれ、その内容を説明する専門用語を用いている。広辞苑によれば、用語とは、「使用する言語・語句。特定の部門や

人に特に使われることば。」とある。筆者などは、最近のワープロの流行で、正しい用語を忘れがちである。老人力も身につくつあるからなおさら大変だ。文章を書くときは、頭のなかの記憶装置は弱っても、ワープロの記憶装置が覚えていてくれるから、変換さえ間違わなければ、正しい用語の使いかたができることになる。

学生諸君の試験の答えは、まだまだ手書き。頭のなかの記憶装置にしっかりと覚えさせて、ペンをとらなければならぬ。筆者は、「法学」の授業を担当しているが、試験の採点時の楽しみの一つは、新しい「用語」を創造してくれる答案を読むことである。「法学」答案上で一番多い新用語の創造は、「当時者」である。裁判や事件に関係する人が「当事者」であるから、事件「当時」の関係者と言って見逃すわけにはゆかない。「紛争解決」も多い。争いを粉々にしてはまとまるものもまとまらない。「紛争解決」が正しい。「損害賠償」は、常に2倍の損害を「賠償」するわけではない。法律用語ではないが、問いに答えて、「検当する」というのによく見かける。これは、「検討する」というべきであるから「見当」違いというものである。

最後に、クイズ。正しくは、「 」と書くべきところを「裁判所」というのも用語の創造として多い。数年前の人気コミックで『家裁の人』というのがあったためだけではないでしょう(鶴太郎主演でテレビドラマにもなりました)。さて、この「 」のなかに入る正しい言葉はなんでしょう。

「法学」(前期開講)の授業でお会いしましょう。

(飯塚)

自然科学部専門部会

自然科学には、主として高校で勉強した数学、理科に関連する科目が含まれています。入試制度の改革により、理科1科目の選択でほとんどの大学に入学することになりました。ただし、現在の科学技術を、理科1科目の知識で理解できるわけではありません。例えば、生物系でも、物理や化学で学習するエネルギーやエントロピーの概念などが必要となります。文系でも、卒業後には数学、統計学などの知識が要求される

かもしれません。基礎的で広範囲にわたる自然科学目の学習に取り組んで下さい。

大学で勉強する自然科学目の内容は、高校生の時のイメージとかなり異なっています。私自身の経験では、暗記の必要な分野と考えていた化学は、原子レベルから論理的に学べば物理学と違いのない学問であること等が、印象として残っています。場合によっては、転学部、転学科の制度を利用して、専門分野を変更することも可能です。

自然系の科目は、積み重ねの勉強が特に重要となります。後期開講の科目を理解するには、前期開講科目の知識が必要となったり、また教養科目が専門を学ぶための基礎科目の役割を果たす場合などがあります。高校生の時ほど十分な演習時間を設定できないかもしれません。講義時間外で、自ら進んで演習問題にチャレンジして下さい。(佐久間)

総合科目専門部会

さあ新学期になりました。例年のごとく例年の作業が始まったとも思えますが、やはり何か真新しいことが始まるのだと思うべきでしょう。

実は、当たり前のように見える授業の裏には、いろいろな努力があるのです。たくさんの授業の担当者を決め、シラバスをそろえ、印刷物を作り、授業開始となるまでには、多くの人手がかかっています。この作業は毎年同じという訳にはいかず、年ごとに行わなくてはなりません。新学期になって無事授業が始まると何かホッとした気持ちになります。

こういう作業の他に、総合科目では独自の特徴を出す工夫をしています。その一つを紹介します。総合科目の特色は、特定分野に限定されず広く話題を取り上げるところにあります。その具体化として、学外講師を輪番的に迎え、何か魅力的なトピックの授業を用意しようとしています。例えば、今年度分で言えば、「隣接県域比較史論」、「現代まちづくり群像」、「文化の創造と水戸芸術館」、「社会人入門特別講義」、「研究する喜びⅡ」等です。これらの授業には、学外講師との調整などいろいろと労力がかかっています。内容の企画もなかなかたいへんです。それだけに、その評判が気になり、特別なアンケート調査なども行っています。(概ねいい結果を得ています。)

今年度は、総合科目の様々な情報が引き出せる検索システムの設置を予定しています。(曾我)

キャンパス情報

人文学部から

新入生のみなさん入学おめでとうございます。これからの4年間で充実した日々になるようにがんばってください。

4月9日午前中の入学式に引き続き、9日午後と、次の10日土曜日にかけて各学科別に新入生履修ガイダンスが行われます。このガイダンスでは、教養科目と専門科目の履修方法について詳しい説明があります。大学生は自分で履修する科目を選ばなければなりません。その選び方の基本を教えますので、よく聞いて、分からない点は必ず質問してください。12日月曜日から早速授業です。12日から16日金曜日までの間、共通教育棟第一会議室でお昼休み(12:00~12:40)に履修相談室を開設しますので、不明な点や確認したいこと

があれば、遠慮なく利用してください。

人文学科では6月に募集単位別ガイダンスを行います。2年次からの専攻決定のための情報提供ですので、興味のある分野のものにはできるだけ多く出席してください。

コミュニケーション学科では8月から9月までの6週間、カナダのマギル大学で英語の夏期集中講座を開きます。参加申し込みを4月中に予定していますので、関心のある人は掲示に注意してください。(渡邊)

教育学部から

－ 介護等体験について －

平成9年に「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」、

いわゆる「介護等体験特例法」が公布された。これにより、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点」から、小中学校の教諭および養護教諭の免許状を取得しようとする者に、「障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験」を行うことが義務づけられた。

その体験は原則として社会福祉施設または老人保健施設で5日間、特殊教育諸学校で2日間、合計7日間以上行う必要がある。

茨城大学では、教育学部は2年次に、人文学部、理学部、農学部は3年次に行う。

この体験を通じて、人間の尊さや人権について理解を深めるとともに、諸施設やそこで働いている人々について理解することを目指している。

前学年の12月～1月に「介護等体験オリエンテーション」が実施される予定であるので、各学部の掲示板に注意し、見落としのないようにして下さい。

(加納)

理学部から

－ 離学・好学のすすめ －

理学部へ入学したあなたは、「数学だけが好きだ」、「生物学だけが好きだ」と思っていないですか。しかも、私はかなり数学のセンスがある、生物学のセンスがあると思っています。大学に入学したからには、数学一筋、生物学命などと張りきっていると思います。そして、あなたの回りにはなんとなく理学部へ入学したと言う人も沢山いるでしょう。大学4年間の勉学の後、ではあなた達はどうなっているでしょう。社会へ出て数学や生物学だけをひけらかして活躍できる場所はほとんどありません。大学院へ進学し研究者になったとしても、はたまた中学・高校の教師になったとしても、自分の専門として勉学したことを生かせる部分は少しでしかありません。社会はあなた達に総合的な知識と豊かな社会性と新しいアイデアのもとに、これからの日本そして世界を拓いて欲しいと願っているのです。

4年間を始めるにあたり、かつて、「ピッカピッカの1年生」と言われた時と同じ初心に戻ることを勧めます。高校までの科目から離れて、「自分の好きなことは何か」、「自分のセンスを磨くためには何をしたらいいか」を真剣に考える時に来たことを自覚して下さい。社会は競争の世界です。挫折もあれば栄進もあります。でもどんな時でも、このことを自覚していれば、道も開けますし、やり直しもOKです。理学部でのこの4年間に、あなた達の身にそのような局面が何度も現れるでしょう。

(田切)

工学部から

－ 幻のエスカレーター －

世間では、大学に合格した若者に「君もやっとエスカレーターに乗ったね」と言って受験勉強の労をねぎらうことがあります。ねぎらってくれた人に悪意はないでしょう。でも、その言葉を真に受けてはいけません。なぜって、大学教育にエスカレーターはないからです。

大学の教育は、旧式のリフトに似ています。現在の大規模スキー場には、風雪を避けるゴンドラからスキーを付けてL型の椅子に座っていると頂上まで運んでくれるリフトまで立派な施設があります。これらは乗客の力に頼らない点でエスカレーターに似ています。一方、小規模スキー場には、滑走式リフト（ロープトウ）があります。

30年くらい前までは、ロープトウが主流でした。初心者はスキーを滑らせる原理を教わったら、つぎにロープトウの乗り方を練習しました。常時動いている鋼索につかまって高みに向かってスキーを滑らせていく作業はかなりの腕力と熟練を必要とするもので、手を放せば後戻りしてしまいます。

必修科目を落として青い顔の学生を見ると、ロープトウから手を放してしまった初心者を連想します。エスカレーターはありません。高校時代の受験勉強は役立ちません。手を抜かず、初年度に大学の勉強法をしっかり身につけて下さい。初めに転ぶと挽回は容易ではありません。

ちなみに、最近5年間の工学部卒業率（卒業者数／（入学者数＋編入者数））は平均91%で推移していま

す。

(野北)

農 学 部 か ら

新入生の皆さん入学おめでとうございます。今まで受験というしほりの中で、窮屈な思いをしてきた皆さんにとって、かなり自由度の大きい大学生活が始まります。この自由をどのように受け止め、そしてどのように行動するかによって大学にきた価値が大きく違ってくと思います。

長い人生の中で、貴重で短いこの「自由時間」を大いなる好奇心と自主性をもって有意義に使ってください。

さて、農学部がある阿見キャンパスでは、今年度、福利厚生施設（食堂、売店など）が建設されています。講義棟・研究棟など主要な建物が整備されて数年が経

ち、待ちに待った学生・職員みんなの生活を支える重要な施設がようやくできることになりました。今までの施設は、開店時間が短く（売店－9時～3時、食堂－11時半～3時）、食堂のメニュー数も少ないため、昼時間に出遅れると、メニューがなくなっていてやむを得ず大学外に食べに行くこともあります。当然夕食は、自炊か外食ということになります。昼食と夕食が、身近で安く食べられることは大変重要なことです。今度できる施設では、夕食も食べられるような計画を進めていますし、皆さんがくつろぎながら語れるラウンジや様々な目的に使用できる研修室も設置される予定になっています。来春、今の意欲ある新鮮な気持ちを持続けて阿見に移動してくるであろう新入生の皆さんをこのような施設が歓迎してくれることでしょう。

(白岩)

新入生のみなさんへ一言 ー私からのアドバイスー

大蔵 夏志（人文学部2年）

大学に入ったとき、私は3つの目標を立てました。1つは勉強。やはり学生の本分は学ぶことなので、卒業するまでに、いろいろ学習しないといけないでしょう。ですが、興味や意欲がわからない学習を続けても挫折するだけなので、私は、英語にしほりました。英語を卒業するまでに話せるようになりたいのです。これから、英語は絶対役立つはずですし、会話の場もずっと増します。しかし、1年間を振りかえってみると、高校の頃と比べて、勉強時間が減ってしまっていました。大学は自由が高校よりもずっと多くあるため、気をぬくとすぐ自分を甘やかしてしまいます。学校にも慣れたことなので今年はちゃんと勉強をしたいと思っています。

もう1つの目標は運動です。そしてあと1つは、友人。何もしないと体はすぐなまってしまい、また、友達のいない学校生活は非常に淋しいものでしょう。この2つの目標を達成するためには、やはりサークルに入るのが1番と考えて、運動部に入部しました。練習はときどききつく感じるときもありますが、体力が

いていくのも分かりますし、友達もできました。ただ、帰るのが少し遅くなってしまうことが多く、部活以外のことがあまりできなくなるのが少し残念です。

まだまだいろいろなやってみたいことがあるので、アルバイトや旅行など、今年はいろいろやってみたいと思っています。後悔しない、楽しかったといえるような大学生活を送りたいと思っています。

蜷川 雅晴（理学部 3年）

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。これから皆さんは楽しい大学生活を送ることになるわけですが、さまざまな不安を持っていることでしょう。皆さんの中には地方出身であるため（と言っても水戸も地方なのですが）友達がいない人もいます。大学は友達をつくりやすいのか、心配している人もいますが、そのような心配は全くいりません。私は福岡出身で大学に入学したときには、友達は一人もいなかったのですが、そのような地方出身の人はけっこうたくさんいるようです。友達がいない人はたくさんいるのですから、まずはいろんな人に声をかけて

みるといいでしょう。そうすると、きっと声をかけられた人も喜ぶだろうし、すぐに友達になれると思います。また、サークル活動をすると、趣味のあう仲間が集まるので、友達も増え、大学生活も充実することでしょう。

また、勉強のことで不安を感じている人も多いと思いますが、これも全く心配いりません。ただ、授業をサポートしたり、レポートを提出しなかったら、授業もわからなくなり、成績もわるくなるでしょう。大学の成績は就職や大学院進学のための重要な資料にもなりますので、言わば、あなたの将来を左右するものなのです。大学での勉強があなたの将来を決めることもあるわけですから、勉強はおろそかにしないようにしましょう。

皆さんは全国の大学の中から茨城大学を選んで入学されたわけですから、皆さんの期待に充分にこたえてくれることでしょう。茨城大学を十分に満喫してください。

加藤 猛（農学部 3年）

新入生のみなん、ご入学おめでとうございませう。長かった受験がようやく終わり、ほっと一息というところでしょうか。今、みなさんは、これから始まる大学生活に期待や不安で満ちていることでしょう。私も、みなさんと同じ心境であったことを昨日のことに鮮明に覚えています。それも早、2年前の話。時の経過をととても早く感じる今日この頃でございませう。

ところで、みなさんはこれからの4年間に何を期待していますか？学問、サークル、友人、遊び、一人暮らし…、とりあえず、大学では今までと違った生活を送ることができることは確かです。充実できるかどうかは、みなさん次第。でも、誰にとってもこれからの4年間は、人生の中でもかなり重要な時間になるはず

です。

さて、新入生へのアドバイスというテーマで原稿を依頼されたわけですが、何をアドバイスしましょう？とにかく、この2年間は振り返っても、私の大学生活はごく平凡なものでしたから。まあ、強いて言えば、この2年間は意識的にいろいろな分野の講義を履修してきたことでしょうか。友人には「オマエ何でそんなに授業とってんの？」と呆れたように言われています。確かに、自分でも履修しすぎたかな、と思うこともありましたが、でも、できるだけ多くの分野を学ぶことを目標にして大学にきたんですよ。一つ一つの分野を完全には消化できないかもしれないけど、少しでも視野を広めておきたいなと思って。

私がとても不安だったことは、大学の講義についていけるかということでした。それは、私が農業高校の出身だったからです。講義内容が高校教養の延長のとき、頭の中は？？？。普通高校出身の友人には、幾度かお世話になっています。得意分野の農学では、逆の立場ですけど、まあ、それぞれに得手、不得手な分野があるので、助け合ってなんとかやっています。テスト前に集まって勉強すると効率が良いのですが、なぜか勉強会が飲み会になっていることもありました。

（強い意志を持ちましょう。）

また、大学生のうちにいくつか資格を取得しておこうと思っているのですが、未だに一つしかゲットしていません。トホホ…。今年は、がんばるぞ！！

どうやら、こんな私ではあまり良いお手本にならないようですね。でも、これだけは言っておきたい。何か目標となるものを自分の中に作ろう。そして、いろいろなことに挑戦して下さい。私も残る2年間、君たちに負けないような有意義な大学生活を送ろうと思います。

Voice — 私のイチオシ授業 —

加藤 幹子（教育学部 4年）

茨大の授業…おもしろい授業があるようでない、だがないようにみえて結構あったりもする。

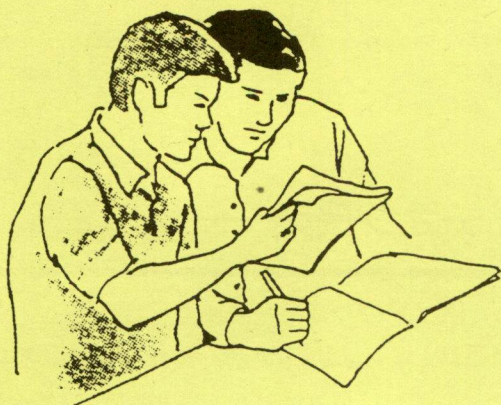
私のオススメの授業は一般教養科目にある「異文化としての日本」という授業だ。これは留学生と日本人学生がグループに分かれてお互いの国の生活や文化について理解・再認識するという趣旨の授業である。立

派なことがシラバスに書かれてはいるが授業を聞いたからといって国際的視野が身につくとか、国際交流の第一歩だとか大げさなことになるとは思わない。要はここで留学生の友達をつくれということだ。皆さんは茨城大学に現在どのくらいの留学生が在籍しているかご存じだろうか？大学院生を含めると200名近くいるという。しかし、自分のまわりに留学生の友人がいるといえる人は案外少ないのではないか。知り合いはいても友達とよべる関係ではないとか、知り合う機会がないといったところだろう。日本人は親密な関係を避けるようだ、とある留学生が言っていたが、授業を通して留学生の友達がつくれてしまうなんて素敵ではないだろうか。

また、意外なところでは「窯芸」なんていう授業もある。タダで陶芸を体験できるうえに自分の陶器が焼けるなんてお得な授業だ。その他にも雑誌をつくって発行するとか、絵本をつくるというようなおもしろい授業も結構あって、要は探し方しだいなのである。

(しかし、学科指定や人数制限もあるので注意が必要)

大学の授業は、与えられることを期待してはダメだと思う。学生が教官に何も求めない以上、教官からは何も得られないのである。また、講義中心の授業はどうしても受け身の一方通行でしかないので、教官が学生に何も求めないように学生も教官に何も期待しなくなる。もし大学に何かを求めたいと思うなら自分から教官に自分を売り込むなど積極的なアプローチが必要だ。



中山 健一 (工学部 3年)

今日の情報化社会において、特に情報通信機能の分野は急激に進歩し、今では誰もが色々な情報を瞬時にそして簡単に得られるようになりました。最近では、携帯電話やPHSの普及率は高まり、いつでも、そして、何処にいても通信可能という特性のおかげで、私たちの生活形態は、昔と比べると大きく変化しました。現代では、情報通信機能は必要不可欠なものとなっていますが、私の学ぶメディア通信工学科では、その最先端の情報通信技術を幅広く学習しています。

1年次や2年次のうちにはいろいろな分野の基礎を学ぶので、全く関連のないように感じる授業ですが、だんだん学年を重ねるごとにその授業の内容は、1つまた1つと結びついてくるので、新しい発見が次々と生まれ、興味や関心は、今まで以上に深まります。私が興味を持った1つに通信方式という専門科目があります。通信方式と聞いて、まず私が思い浮かぶのは、デジタル通信、アナログ通信、光通信などでした。しかしこの授業にあたって、これらの用語ぐらいしか知らず、具体的なことは、殆ど知らなかったのととても不安でした。ところが、この授業では、他の科目で習ったことができたり、先端の研究機関から来られた教官が、実践的な話をわかりやすくしてくださったので私にとって大変興味深いものとなりました。なかでも、ファックスの原理や雑音の話はとても面白かったです。そしてデジタル通信方式の基礎原理なども実体験などの話を交えた講義は、私には、とても新鮮でした。

日頃身近に使用しているものを、具体的に学ぶ事は大変面白いことです。しかしそれを学ぶためには、基礎となる知識をまず身につけていなければならないと私は考えます。そのためにも、多くの授業を履修した方がいいと思います。最後に、すばらしい教官に恵まれ、そしてすばらしい研究環境で勉学ができる私は幸せだと実感しています。

教 養 教 育 古 今 東 西

所変われば品変わる

私の研究室にケンブリッジ大学の卒業生が在籍している。彼からの聞きとりをもとに、イギリスの一大学であるケンブリッジ大学を例に、外国の大学の教養教育について紹介したい。

ケンブリッジ大学の学部は3年間で終了する（最近、4年コースも設けられたようである）。ここでは自然科学のコースを例にとってみたい。このコースの1年次には10科目(biology of cells, biology of organisms, chemistry, geology, material and mineral sciences, physics, physiology, mathematics, quantitative, biology, elementary, mathematics for biologists)が用意されている。基本的にはこの中から3科目を選択することになる。自然科学の分野で幅広い勉強をするためだという。2年生になると1年生のカリキュラムより細分化された20科目が用意されている。この中から自分の専門分野に関わる3科目を選択するのである。1年次に比べるとより専門性が強まってくる。ここまでの2年間の教育は教科書に書かれている内容が中心である。3年生になると、特定の一科目に絞って教育がなされる。ここでの内容は極めて専門性が強く、その分野の最先端に焦点が絞られている。茨城大学に比べると科目数は極端に少ないが、講義と実習を組み合わせた極めて厳しい指導がなされているようである。少し油断をすれば、簡単に落伍してしまうとのことである。こう見てくるとケンブリッジ大学には、日本の大学で設けられているような教養科目は無いことになる。あえて言うならば、ケンブリッジ大学の自然科学専攻学生に対する「教養教育」とは、自分の専門とする分野と異なった1, 2の分野の内容を、自分の専門分野同様に深く理解させることらしい。

日本の大学の教養教育と比較してみると、その基本的な姿勢は逆の方向を向いている。日本の大学では、自然科学専攻の学生でも自分の専門とは直接関係のない体育・語学・社会科学・人文科学等にわたる科目をはば広くとることが要求されている。イギリスでは、

自然科学専攻の学生に対するこのような分野の教育は、大学入学前に終えており大学教育においては必要のないものと考えているようである。

これからの日本の大学教育は、グローバルスタンダードに基づいて評価されなければならないといった意見がマスコミを中心に始めている。それでは、教養教育についてのグローバルスタンダードとは何であるか？教官も学生も真剣に考える必要があろう。教育においても国ごとに伝統があり、一方、スタンダードなものも社会環境の変化とともに変わらざるを得ないことは確かである。

天野 一男（地球生命環境科学科）

私が今まで滞在していたシンガポールのことを少し紹介します。シンガポールは、昔イギリスの植民地の歴史から完全に英国の教育制度を取り入れています。また、その制度から大きな恩恵を受けています。

中学校(Secondary School)を卒業すると、O (Ordinary) レベル試験、高校(Junior College)から出ると、A (Advanced) レベル試験があります。試験は、すべてCambridge大学で作った試験問題を使い、成績は、英連邦諸国から認められます。したがって、自分がとった点数によっては、国内に限らず、イギリスやオーストラリアなどの大学も自由に選ぶことができます。また、大学はいつでも見合った成績を持つ学生を受け入れてくれますので、自分の（目標、経済など）状況に応じて、入りたいところへ、入りたい時期に入学することができます。ここしか入れないからと、入学するという日本の現状とはだいぶ違います。

教養は、よく人格や思想を形成、発展の意味合いで用いられています。日本では教養部廃止などの改革が行われているに対して、シンガポールでは、学生のリーダーシップや創造性の養成に力を注いでいます。荒波の世の中に送り出しても自力で生きていけるスキルと精神を植え付ける一方、真剣に“Creativity”を教えることができるかを議論しています。日本の大学で

は、長閑な学園と厳しい世間の環境の落差に気づいている学生がどれほどいて、また卒業までの間に心身の準備ができた学生がどれほどいるのでしょうか。ドリンク剤のコマーシャルに出てくるような世界を相手に戦えるBusinessmanにするには、学生諸君自身のさらなる奮起と高等教育の改革を期待したいと思います。

ところが、面白いことに教育と教養は必ずしも関連しないことです。シンガポールでは、総じて中国系（華人）の学生が一生懸命勉強してよい成績をとっています。また大学への進学率も高いのです。それに対して、マレー系の学生が午後の体育授業中に日陰（シンガポールは実に暑い）で昼寝をしたりします。

また社会に出ても一生懸命に働いて出世するのがたがい中国系の人です。シンガポールでは、“Kyasu

（負けず嫌い）”という流行語があるほどです。ところが、道を聞くとときにもっとも親切に教えてくれるのがマレー系の人です。

家を捨てて東南アジアへ出稼ぎに行った華人の先祖は、一生懸命働く以外に活路はありませんでした。人一倍苦勞しましたが、金銭欲、出世欲も人一倍に強く見えるのは、それしか頼れるものがなかったからです。それに対して物産が豊富なマレーシアでは、生きていくだけなら全く苦勞しません。人はいつも陽気で、包容のある振る舞いをしています。さて、どのような人生を歩み、それが果たして許されるのかをいつも深く考えさせられるものです。

周 立波（システム工学科）

教養教育NOW — 教養教育に関する点検評価 —

教養教育に高い満足度！ これは意外？ or 当然？

— 学生2,396名の回答から —

昨年の11月初旬におこなわれた「教養教育システム及び教養授業についての学生アンケート」結果は、本学の教養教育の現状に対する学生の考えあるいは評価に興味深く示している。以下データを交えながら特徴的と思われる点を掲げてみる。

今回の調査は、平成8年度教養教育改革の検証という主旨で、該改革の直接の受け手となった3年次生までの学生を対象とした。

1. 現在の教養教育の仕組みについて

①教養38単位制

教養科目の最低修得単位数38単位（教育学部は別枠）のしほりについて「現状でよい」（69.9%）が、「減らす」（22.5%）を圧倒している。「旧カリキュラムでは24単位だが38単位ぐらいでいいと思う」（95T70）という記述を例として、専門科目の履修中の3年次生も概して現行枠を肯定している。その理由としては後にみる授業満足度の高い水準と無関係ではないであろう。「もっと増やす」（6.1%）との意見も考慮する

と、38単位制は当面変更する必要がないということになる。それより、「単位数の問題ではない」（96L10）という指摘こそが重要なのである。

②教養科目区分及び必修制

共通基礎科目（外国語科目、健康・スポーツ科目、情報関連科目）及び主題別科目（分野別科目、総合科目、主題別ゼミナール）という教養科目区分について「現状のままでよい」とする割合が65.4%に上る。「変更の必要がある」（8.4%）という回答より、科目区分について「わからない」（24.9%）という回答の方が3倍も高いのは、科目区分の意味と必要性をより明確にすることが求められているといえよう。

「変更の必要がある」と答えたものに、具体的な変更記述を求めたところ、多くが「分野別科目と総合科目の内容の区分がはっきりしていない」（98A10）という回答を記している。この回答をみると「変更の必要がある」と答えた者も基本的には、「わからない」とする回答グループと同様に、科目区分の意味や必要性が不明瞭なものと感じているのではなかろうか。

他方、全科目必修制については、やはり「現状のままでよい」とする割合が61.4%に上る。

以上から既にわかるように、6割強の学生はおしな

べて現状肯定の回答を寄せている。したがって、敢えていえば、残り4割のものの意見に注意を払って、必要な見直しと改善をおこなえば学生にとって教養教育はより満足のいくものとなる。

全科目必修制について、「変更の必要がある」(18.5%)と回答したものに、具体的な変更内容の記述を求めたところ、必修制をはずせとする単純な意見より、「主題別ゼミナールのみ必修制でのこりは自由に」(96T40)「分野別科目は各分野で何単位ずつでなく、全分野で何単位という形が望ましい」(98L10)などの傾聴すべき提案の方が多く寄せられている。

③センターの情報提供

教養授業の履修に必要な情報が大学教育研究開発センターから提供されているかとの質問では、「まだまだ不十分」(46.8%)「まったく不十分」(17.4%)の合計が6割強と手厳しい回答割合になっており、改善の余地が大いにありそうだ。掲示・説明の在り方、情報提供・情報アクセスの方法など技術的改善で相当に克服できるものがある。直ちに対処したいと思う。

2. 教養授業の満足度について

①教養教育目標との適合性

本学では教養教育の目標として、「幅広く深い教養を身につける」「総合的な判断力の形成」「豊かな人間性の形成」を掲げている。この目標に照らして受講した授業はどうであったか。「満足」(2.5%)「ある程度満足」(57.3%)でやはり評価は6割。しかし、「すこし不満」(28%)「まったく不満」(10.2%)という辛口のはっきりした評価も4割に上り、他の説明でわからないといった保留の高い割合とは明確に異なる回答態度が看取される。不満の理由について記述を求めたところ、怒りとため息とあきらめの入り交じった多種多様な文章が出された。

「科目によって目的がわからないまま半年過ぎてしまい、単位云々になってしまい目標どころではなくなっている。所詮は単位のためになるので、出席(代返、代筆)、テスト(カンペ、過去問)に重きを置いて内容はそっちのけとなる」(96T40)

「教える教官がそのような目標を意識しているようには感じられないから」(98L10)

「幅広いはずなのに、内容が専門すぎて、よくわからない講義が結構あった」(97P10)

かような不満は、個別の授業科目についての質問領域にはいると格段に具体的かつ詳細になるのであるが割愛せざるをえない。

②各教養科目授業の満足度

各教養科目の授業に対する満足度の分布一覧を掲げてみよう。

各教養科目の授業満足度一覧(%)

	外国語	健康スポーツ	情報関連	分野別科目	総合科目	主題別ゼミ
十分に満足	17.9	44.6	16.7	9.5	13.9	19.5
ある程度は満足	49.5	38.4	34.8	54.3	51.1	35.5
あまり満足せず	21.0	8.4	21.5	26.0	24.3	13.3
まったく不満	6.0	2.4	7.3	3.7	4.2	4.8
その他	0.04	0.2	0.04	0.04	0.2	0.2
無記入	5.5	0.6	19.7	6.5	6.3	26.6

*情報関連科目と主題別ゼミナールは1年次生が未履修で無記入割合が高くなった。

各科目の授業の満足度は、最も高い健康スポーツの83%と最も低い分野別科目の63.8%の間にあり、各々30%程度の不満足に照らして、教養授業には総じて肯定的な評価が与えられているといえる。しかし、工農の学生の回答に多数みられる「水戸と不公平だ」「学生の移動コストより教官個人の移動コストの方が安いはずだ」「農学部では2年以上だと教養授業の履修は絶望的」などの記述は、本学の教養教育になお多くの改善改革の課題があることを示唆して余りあるように思われる。(田村武夫)

新入生の授業を担当して

ここ数年間1年生の数学を担当しているが、授業法については、相手の反応を見ながら方法を考えなければいけないと今年度は特に強く感じた。授業を始めて2, 3回目に学生に、授業を含めて何でもいいから感想を書いてほしいと頼んだ。聞いた本人としては授業の進み具合について意見を聞きたいと思っていたのであるが、ミニテストと同時に実施したので、大部分は授業の進み方は今のままがよいとか、よく理解できるなどと言った、それまでの2, 3回の授業を容認するような内容が多かった。しかし、中には、教養の授業は概して面白くないとか、もっと詳しく説明してほしいという要望もあった。正直なところを言えば、今年度は、昨年度までとは違って格別丁寧にゆっくり進めていた。丁寧に説明していたことが原因かどうかは不明だが、今年度は私語が少なく比較的快適に授業を進

めることができた。大半の学生は今のままでよいという状態であったので、進度を気にしながらも結局ゆっくり進めることにした。さて中間試験をやってみたところ、なんと、予想していたほどよくできていないという結果になった。これは、学生自身も、中間試験の答案に感想を書いていたが、要するに、手を動かして、演習をやっていないことによるもので、理解したつもりになっていながら、実は問題を解くところまではいっていないと言うことの結果であった。このことを知って先へ進むよりも少しでも理解してもらうことに重点を置き、最後まで通したが、果たしてこれでよかったのかどうか。疑問は残る。次年度は理解力を落とさずに工夫をしたいと思いつつ今年度の授業を終えた。

(奥 達雄)

つ ぶ や き

教養教育の要となる大学教育研究開発センターがニュースレター「ローザ・プルムラ」を刊行して3年になろうとしています。今年も初々しい新入生を迎える春がやってきました。新入生のみなさんは初めての大学生活への期待と不安を胸に、この冊子を握りしめていることでしょう。「ローザ・プルムラ」はラテン語“Rosa Plumura”「薔薇の若芽」を意味しており、そのイメージからニュースレターの紙の色は「もえぎ色」となりました。このニュースレターは、無限の可能性を秘めた若芽（みなさんです！）が茨城大学という土壌で育っていくための支えとなるでしょう。年に4回発行しています（1月、4月、7月、10月）ので是非ご覧になってください。編集に当たっては、「読みやすい」「読んで面白い」そして「役に立つ」をモットーに、「一年次学生と教職員を念頭に置いたセンターからの情報発信チャンネル」を目指しています。ただし一方通行とならないように、みなさんの声をできるだけ多くの人に伝えようと努力しています。学生ならびに教職員のみならずからの投稿を心からお待ちしております（企画室教養教育係まで）。（S. N）

発 行 日 平成11年4月

発 行 者 茨城大学

大学教育研究開発センター

水戸市文京2-1-1

029(228)8416(企画室教養教育係)